

名家連ニュース

令和4年5月29日(水)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX(052)846-5576 NO.996

◆ 第26回 名家連定期総会開催 ◆

5月19(日)午後1時より、名古屋市総合社会福祉会館大会議室において全家族会(12家族会)から35名が参加して、第26回名家連定期総会が開催されました。池山会長の挨拶に続いて、名古屋市健康福祉局健康部の中島亮一担当課長、愛家連の江崎会長が来賓の挨拶をされました。今期は役員改選があり、堀田理事、富永理事、野原理事、長江理事が退任され、福光あづさ理事、水野良子理事、館理江理事が承認されました。堀田理事、野原理事は監事に就任することが承認されました。総会後の理事会では池山豊子理事が引き続き会長に選任されました。

◆◆ 野澤和弘先生による記念講演 ◆◆

総会記念講演会では、野澤和弘先生(植草学園大学副学長(教授))が「身近な発達障害について～誰もが住みやすい地域を作るには～」と題して講演を行われました。参加者は56名でした。

野澤和弘先生は知的障害があるお子さんの父親で毎日新聞記者の傍ら、千葉県の浦安市で主に知的な障害の方の地域生活の支援をされてきました。2005年から千葉県の「障害者差別をなくすための研究会」座長を務めて2007年全国で最初の条例施行に結実させました。2009年に毎日新聞論説委員を退職されて現職に就かれました。2023年から「強度行動障害のある人の豊かな地域生活を実現する「地域共生モデル」の理論の構築と重層的な支援手法の開発のための研究」を厚労省の助成を受けて実施中です。



スティーブンスピルバーグ監督は学習障害であった。家族の愛情と、映画への情熱、そういうものを伸ばしてくれる教育があったから我々は素晴らしい作品を見ることができる。

社会全体がみんな間違っただけに行くと、こういう能力を持つてる人たちがすごく小さなところに真実があるのを見抜いて、社会にブレーキをかけられることが絶対必要である。こういう人の存在が、社会を進化させ、多様性のある社会に繋がり、経済や文化や科学の発展をもたらすし、未知の危機に対しても対応できる社会になる。エジソン、アインシュタインも発達障害があったといわれている。

発達特性の凸凹があると、周囲とのずれが生じ、社会的評価が低くなり、孤立、いじめ、虐待により、ますます自己肯定感が低下し、周囲からの信頼感が低下し、二次症状が出てくる。二次症状は何かというと、内在化は鬱だとか、リストカットとか自殺に繋がる。外在化は、迷惑行為だとか非行だとか犯罪だとかに繋がる。本来の特性というものをちゃんと大事にしてあげれば、こういう負の連鎖に陥らず済んだと思う。

そういう方を閉鎖的なところに隔離して改善に取り組むより、地域でいろいろトラブルがありながら、いろんな活動をしていく方が、結局は改善に繋がる。地域での豊かな生活というものを軸にすべきだと思っている。そのことを普遍化したいと思い、3年計画で先に述べた研究を進めている。

最後に、いろいろな障害のある方と東大生がゼミで対話して、福祉分野で活躍する卒業生が誕生していることを話されました。予定の時間を超えて質疑応答にも答えてくださいました。

数多くの現場での経験に基づいた、野澤先生の研究成果が広く社会に伝わり、「地域共生モデル」の成功例ががさらに各地で広がることを期待したいと思います。(文責 広瀬)